

第3回実践的防災学シンポジウムを開催しました（2018/10/31）

テーマ：実践的防災学、企業、病院、学校、行政、被害予測、シミュレーション、組織の減災
場所：東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール（宮城県仙台市青葉区）

2018年10月31日(水)午後、災害科学国際研究所主催で、第3回実践的防災学シンポジウム「組織の減災をどう進めるか ～方法の提案と実装に向けて～」を、当研究所1階多目的ホールで開催しました。このシンポジウムは、当研究所の総合減災プロジェクトエリア（減災・復興デザインユニットと減災社会実装ユニットで構成）が企画・運営を行い、2017年2月に第1回、2018年1月に第2回を開催し、今回で第3回目となります。当日は約40名の方にご参加いただきました。

まず、丸谷浩明教授（減災社会実装ユニット）が開会の挨拶・趣旨説明を行い、第1部を「組織の備えの実情と対策」というテーマで、以下の教員及び外部講師が発表しました。

- ・指田朝久（東京海上日動リスクコンサルティング主幹研究員・立教大学大学院特任教授）：
「企業の災害対応の現状と課題」
- ・佐々木宏之 助教（災害と健康ユニット）：「東北大学病院 BCP の維持・管理と今後の課題」
- ・村岡太（宮城県教育庁スポーツ健康課課長補佐（防災教育担当））：「学校の災害への備え」

第2部では、「組織の備えをどう支援するか」をテーマに、以下の教員が発表しました。

- ・寅屋敷哲也 助教（減災社会実装ユニット）：「官民連携による組織の防災の推進」
- ・村嶋陽一 特任教授（客員）（国際航業株式会社 防災情報チーム）：「リアルタイム津波浸水被害予測とその活用」
- ・森口周二 准教授（レジリエント社会基盤ユニット）：「拡張型 GIS による災害シミュレーションのプラットフォームの構築」

※下線部は、当研究所メンバー

第3部では、各発表者をパネラー、コーディネーターを丸谷浩明教授として、パネルディスカッションを行いました。発表者間のディスカッションでは、病院での災害発生時の来訪者数の予測等の潜在リスクのBCPへの反映の可能性、シミュレーションや予測技術の実務への適応可能性、学校の教員における災害時の負担軽減の必要性、地域の重要産業の復旧の優先順位を決定する基準等について話し合わせ、また、フロアからも発表者への積極的な質疑が行われました。最後に、村尾修教授（減災・復興デザインユニット）がむすびの挨拶を行い、終了しました。

文責：丸谷 浩明、寅屋敷 哲也（減災社会実装ユニット）
写真：マリ・エリザベス（減災・復興デザインユニット）
（次頁へつづく）



丸谷教授 (開会)



佐々木助教 (発表)



寅屋敷助教 (発表)



村嶋特任教授 (客員) (発表)



森口准教授 (発表)



村尾教授 (むすびの挨拶)



パネルディスカッションの様子